

# 平成20年度事業報告

東京大学東洋文化研究所

附属東洋学研究情報センター

## 東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター

設 立 平成 11 年 4 月 1 日  
所在地 〒113-0033  
東京都文京区本郷 7-3-1  
電 話 03-5841-5839  
FAX 03-5841-5898  
URL <http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/>

### 現状と課題（平成 20 年度）

#### はじめに

東洋学研究情報センター（Research and Information Center for Asian Studies、以下、センターと略）は、東洋学文献センター（1966 年設置）に代わる東洋文化研究所の附属施設として、平成 11（1999）年 4 月 1 日に新設された。センターは、研究所が行うアジアに関する先端的な研究と連動し、またその成果を踏まえながら、アジア全域を対象とする「アジア資料学」の確立を目指している。具体的には、「アジア地域の人文・社会科学（文献・造形資料、現代的諸課題）に関する資料・情報の収集・研究とその情報化」に関する事業を担っている。

センターの研究分野は、造形資料学分野と比較文献資料学分野とに分かれる。造形資料学分野は、美術作品・建築・考古資料・民族学資料・地図・挿絵・映像・写真等の非文字資料を、比較文献資料学分野は、漢文や中国語に限らずさまざまなアジアの言語で書かれた書籍、新聞雑誌、文書、碑文等の文字資料を研究対象とする。センターの教員スタッフは、造形資料学分野担当の教授 2 と、比較文献資料学分野担当の教授・准教授各 1 に、それらを補佐する助教 1 からなる。

また、上記の文献・造形資料学の研究に加えて、新たにアジア研究に関する情報を収集・整理・蓄積・公開することを目指す研究情報プロジェクトを平成 15 年度から開始した。こうした新事業の展開を通じて、研究所が行うアジア各地域・各分野に関する先端的な研究を支えるアジア資料学の構築に加え、アジア研究情報を収集・加工・発信する研究情報センターとしての機能がさらに強化され、また学界や社会に対して大きな貢献がなされることが期待されている。

平成 15 年度から、新たに外部資金を戦略的に投入することによって事業の拡大・充実を行い、さらに、文部科学省科研費などにより実施された一般プロジェクトとも連動して、包括的な内容を持つアジア資料学の構築を目指した事業を実施した。(個別のプロジェクトについては別表参照)

平成 20 年度は、各データベースにおいて追加入力等を行い、その成果をセンターのウェブサイト上で公開した。

成果普及活動としては、漢籍整理長期研修を実施するとともに、ニューズレター『明日の東洋学』と文献目録資料『東洋学研究情報センター叢刊』を刊行した。また、全国文献・情報センター長会議等へ参加し、学内外の関係機関との交流を深めた。

2004 年度に開始された東アジア研究の促進事業は、2003 年の ASEAN+3 ミーティングで、日本が提唱し、承認された事業である。2005 年 1 月に ASEAN+3 の 13 カ国（日本を含む）と AUN: ASEAN University Network の研究者を招き、2 日間のミーティングを行い、NEAS: Network for East Asian Studies という組織を立ち上げた。当センターは、2007 年度の第 4 回会合まで幹事機関を務めた。2008 年度は、ASEAN 大学ネットワーク事務局が幹事機関となり、2009 年 2 月 16～17 日に韓国で、第 5 回東アジア研究促進ネットワーク会合を開催した。

## A 人員・施設

### 1. 教職員

研究情報センター長	教授	小川 裕充
研究情報センター	教授	丘山 新
	教授	榊屋 友子
	准教授	玄 大松
	助教	松田 訓典

### 2. 施設

#### 現在面積

教育・研究施設	6, 502 平方米
設備室等	110 平方米
計	6, 612 平方米

## B 本年度実施状況

### 1. センタープロジェクト

研究情報の収集、資料整理やデータベースの構築とその公開に関わるプロジェクトを募集し、実施している。

重点プロジェクト……センター予算によって重点的に実施するもの。

試行プロジェクト……重点プロジェクトに移行することを目的として、試行的に実施するもの。

一般プロジェクト……センター予算外から予算措置を講じて実施するもの。

### **重点プロジェクト**

#### 1. 漢籍知識庫の構築（5年計画1年目）／丘山

[文献]

##### ◆全体計画

- 1) これまで構築してきた漢籍目録 DB と貴重漢籍画像 DB との2つの【漢籍資料庫】を統合し、さらに研究情報を付加することにより、より有用な【漢籍知識庫】へと格上げする。
- 2) さらに漢籍に関する国際知識庫を構築するために、中国・台湾と共同研究する。
- 3) なお、貴重漢籍に引き続き、使用頻度が高いために痛みが激しい漢籍の保存のため、それらのデジタル化を進める。

##### ◆今年度の進捗状況

- 1) 昨年度に引き続き、漢籍目録 DB に「四庫全書綜目提要」を付加する入力作業を進め、1000件のデータを作製した。これらは21年度に元データにリンクする予定。
- 2) に関しては、台湾国家図書館などと交渉中。
- 3) に関しては、予算の関係上、作業は一時保留にしている。

##### ◆具体的な成果物

貴重漢籍善本全文画像データベース <http://shanben.ioc.u-tokyo.ac.jp/>

#### 2. アジア美術画像アーカイヴ（第2期）（3年計画1年目）／小川

[造形]

##### ◆全体計画

当研究所では、この60年来、世界の公私コレクションに所蔵される中国絵画の調査・撮影を実施し、写真資料の収集・公開に努めてきた。その結果、資料点数は無慮20万点に及ぶ。本プロジェクトは、これを中核として、東南アジア彫刻スライド資料2万点など、新たなものを加えるとともに、さらに工芸分野にもわたる調査・撮影旅行を実施して、総合的なアジア美術画像アーカイヴの構築を目指すものである。

◆今年度の進捗状況

今年度は、ヨーロッパ及び雲南省仏教彫刻・史跡調査を実施した。対象国・地域は、ヨーロッパ及び中国である。前者においては、中国絵画約1500点の調査撮影を行い、後者においては、雲南省博物館・昆明市博物館などで調査撮影を行った。また、上記の東南アジア彫刻スライド資料2万点のうち、インドネシアの遺跡14カ所・写真3200枚、タイの遺跡30カ所・写真1300枚についての整理が完了するなど、5割を肥える資料の整理を終了した。

3. 中国美術関係資料の収集・整理とデジタル化（3年計画1年目）／板倉

[造形]

◆全体計画

本プロジェクトはこれまで継続して行ってきた中国絵画デジタル・アーカイブ・プロジェクトを基礎として、さらなる発展を目指すものである。全体を包括するアジア美術画像アーカイブ・プロジェクトであるが、その中心をなす中国絵画のアーカイブをより充実させるため、科研等で新たに収集した資料を加工・整理し、公開のための準備を行う。その上で、アジア諸地域における美術の様相をデータの構造から比較・検討していく。

◆今年度の進捗状況

中国絵画資料については、継続して写真のデジタル化を進め、新たに加わった資料整理を行った。また試験的にデータベースに画像を添付する作業を開始したが、それらのイントラ公開方法についての検討途中である。公開済みのホームページに関してはデータアップを行い、中でも「東アジア絵画史研究文献目録」では既に公開している部分に新たに資料を加えた。

◆具体的な成果物

中国絵画所在情報データベース 公開中

東アジア絵画史研究文献目録 公開中

<http://cpdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/>

4. 東文研蔵アジア写真資料データベース（5年計画4年目）／平勢

[造形]

◆全体計画

当研究所が戦前以来今日にいたるまで研究上の必要から収集してきたアジア関係の研究写真資料を集成し、インターネット等で公開しようとするもの。

◆今年度の進捗状況

すでに『東文研蔵アジア写真資料データベース』を立ち上げ、「インド史跡調査」・「山本賛七郎写真ガラス乾板データベース」・「清朝建築図様デジタルアーカイブ」・「関野貞収集中国碑碣卓方資料アーカイブ」・「植民地期ビルマの土地関係資料写真データベース」・「東アジアの亀跡」を公開している。今年度は、金文関係資料のデジタル化を進めた。

◆具体的な成果物

デジタル写真資料をDVDとして保管するとともに、一部を試験的に内部で閲覧できるようにしている。

## ◆全体計画

2003年度から実施してきたアジア・バロメーターのデータを整理し、一般の研究者の利用に供しやすい環境を作る。2008年度は2006年度と2007年度に収集したデータのWebでの公開を行うとともに、2008年度に実施した調査のデータを利用した各種論文・報告書を執筆し、アジアを横断的に研究する知的潮流を作り出すことを目的としている。従来、「データの砂漠」と言われてきたアジアの現況を克服し、アジア研究者の「見えざる国境」を超える革新的なプロジェクトである。

## ◆今年度の進捗状況

2008年度の調査は、猪口孝・東文研名誉教授を中心にした科研費・特別推進研究によって実施され、2008年12月17日から18日に報告会が実施された。参加者は、同報告会に提出した論文をもとに、論文集の刊行に向けてリライトを行っている最中である。他方、2006年度と2007年度のデータはWebで公開されており、利用可能な状態になっている。アジア・バロメーター調査のデータを分析したり、分析結果を引用した刊行済みの文献の数は、2009年3月20日時点で203となっている。また2006年度のデータまで、一般の人々が自由にWeb上で閲覧できる環境が整っている (<https://www.asiabarometer.org/en/findings/General%20findings/2006>)。

## ◆具体的な成果物

今年度刊行された論文などは<https://www.asiabarometer.org/en/publications/2008>にリストアップされている。

**試行プロジェクト**

## ◆全体計画

## [趣旨]

現存するサンスクリット資料とチベット訳資料を用いて、すでに散逸した膨大なサンスクリット原典資料の論理的再構成を支援する環境（構文対照電子辞書）を構築する。

## [作業概要]

現存するサンスクリット資料とそれに対応するチベット訳資料を電子データ化し、両者を構文レベルで対照させる。さらに、利用者の入力した原典未詳のチベット文（＝検索キー）と類似するデータを蓄積データの中から選び出し、チベット語・サンスクリット語構文対照の形式で出力するサーバを構築する。

## ◆今年度の進捗状況

サンスクリット原典の現存する以下の各資料につき、チベット訳資料との構文対照データを作成し、検索用サーバに搭載した。

資料名	サイズ (バイト)	シラブル数
<i>Suvarṇabhāsottamasūtra</i> (『金光明経』)	16,258	1,179
<i>Ratnagoṭravibhāga</i> (『宝性論』)	420,845	43,323
合計	437,103	44,502

表1 平成20年度作成データ (平成21年3月9日現在)

◆具体的な成果物

- (1) eDic の Web サイト <http://suzuki.ypu.jp/edic/>
- (2) eDic の 検索サイト <http://texa.human.is.tohoku.ac.jp/aiba/demo/eDv/html/>  
 検索サイトの利用状況 平成20年度計1,299回 (平成21年3月9日現在)

7. アラビア文字圏ポリグロットグロスリー構築プロジェクト (5年計画4年目) / 鈴木 [文献]

[研究情報]

◆全体計画

古籍を中心とした多言語によるアジア電子図書館構築にあつて、アジアの主要地域に3つの文字圏として捉え得ることに鑑みれば、各文字圏についてポリグロット・グロスリーを作成し、常に利用しうる体制としておくことは、それ自体が多言語による電子図書館のレファレンス部門として不可欠の意味を持つとともに、古籍研究自体にとっても強力な武器となるであろう。ここで、アジアの3大文字圏中、とりあえずアラビア文字圏を対象として、ポリグロットグロスリー作成を進めてきた。

◆今年度の進捗状況

本年度は、前年度のアラビア語・ペルシア語・オスマン語・トルコ語の基本的辞書のデジタル化作業をふまえ、アラビア語・ペルシア語・トルコ語の最も基本的な辞書の見出し語を、アラビア文字のアルファベット配列に基づきつつ、コンピューターに入力する作業を進め、ペルシア語辞書及びローマ字表記の現代トルコ語辞書の見出し語の入力作業をほぼ完了し、再点検を進めた。また、アラビア文字表記のトルコ語であるオスマン語についても、見出し語の入力を進め、入力を終え、再点検作業に入った。これに加えて、アラビア語辞書の見出し語の入力を、かなりの程度進めた。CD化した辞書を加工してポリグロットグロスリーとして編集するための基礎作業については、前年度に引き続き、手法確立のための試験的作業を進め、アラビア語表記の諸言語の見出し語のアラビア語配列の手法につき検討を進めた。

8. 東アジアの共生観醸成に向けた黄砂研究データベースの構築 (3年計画1年目) / 安富

## [研究情報]

### ◆全体計画

東アジアで広く観測される黄砂は、近年国境を越えた環境問題として認知されるようになってきた。しかし、IPCCの報告にもあるように、未だ自然科学的理解も十分ではない現在、私たちは黄砂とどう向き合ったらよいのか。本プロジェクトでは歴史的に黄砂情報を整理しつつ、

科学的知見を構造化し、これからの黄砂研究のあり方を考える基礎的なデータベースの構築を目指す。最終的に、黄砂を東アジアにおける人類と自然との共生観アイコンと位置づけ、新しい東洋学の視点を切り開きたい。

### ◆今年度の進捗状況

本年度は、今後のデータベース充実化に向けた基礎調査とサイト構築を目指した。まず、本プロジェクトではWikiを採用し、今後継続的に更新できるシステムを導入した。また、既存の黄砂情報を整理するために「研究」「ファンド」「対策」の3軸をとってデータ収集を行った。「研究」はIPCCの報告書や黄砂研究者の著書を参考にした。「ファンド」では科研費データベースから黄砂に関する情報をピックアップし、黄砂研究とお金の流れを調査した。「対策」では、国際機関やNGOの報告等を下地にこれまで行われてきた黄砂対策について調査した。

### ◆具体的な成果物

黄砂Wiki 2009年4月から公開 (2008年3月から仮公開中)

<http://crec.org.cn/kosa/>

※黄土高原生態文化回復研究センターのサーバーにて運用中

## 一般プロジェクト

### 9. インドネシアの更紗 (バティック) 画像データベース作成 (4年目) / 関本 [造形]

#### ◆全体計画

インドネシアの更紗 (バティック) 画像データベース作成、第4年度目。

代表者はこれまで、アジアにおける地場産業・伝統技能の研究の一環として、インドネシアの更紗製造業調査を続けてきた。手元にある更紗布地約300枚について情報を公開したいので、画像データベースを作る。300枚のなかには美術工芸的に興味深いものも、そうではないが更紗製造業の多様性の資料として意味のあるものもある。この両者を対象にする。

#### ◆今年度の進捗状況

昨年度デジタル撮影を終えたバティック布について、1枚ごとの布のデータ表の作成を行い、またデータベースの設計を開始した。

### 10. イスラーム美術・建築作品の画像・情報アーカイヴ (1年目) / 梶屋 [造形]



◆全体計画

世界の様々なコレクションに収められているイスラーム美術作品やイスラーム地域各地に残されたイスラーム時代の建築作品の調査研究を行って収集した画像資料と作品・建築に関する情報や既に蓄積された画像資料を整理・分類・分析することによって、アジアにおいて文化的・国家的自己同一性の追求と形成がいかに美術に即していたかについて、イスラーム地域の事例を供するものである。

◆今年度の進捗状況

平成19年度調査によって獲得されたフランス及びドイツ所蔵のイスラーム・タイルに関する写真資料及び情報を整理した。東文研図書室旧9層より発見されたインド・イスラーム史跡写真ガラス乾板の整理に向けて、準備作業を行った。また、インド・イスラーム史跡写真資料に基づく国際的な研究協力体制を構築すべく、カナダのブリティッシュ・コロンビア大学およびヴィクトリア大学と協議した。

◆具体的な成果物

東京大学東洋文化研究所所蔵インド史跡調査資料デジタルアーカイブ  
<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~islamarc/index.html>

11. データベース「世界と日本」(1年目)／田中

[研究情報]

◆全体計画

Web ページ『世界と日本』において、近現代の日本ならびに国際関係に関する包括的なデータベース「データベース20世紀・21世紀年表」(2008年1月現在222,418項目)「日本政治・国際関係データベース」(2008年1月現在3580文書)を作成し、公開するプロジェクトである。

平成20年度は、首相・外相などの演説、国際会議関連文書、国際条約、その他外交関連文書などのデータを780件、3.5MBを目標に作成し、公開する予定である。

◆今年度の進捗状況

計画どおり、首相・外相などの演説、国際会議関連文書、国際条約、その他外交関連文書などのデータなどを作成している。ニーズが高いと思われる最新のサミット文書などについては、作成後、なるべく早く公開する方向で努力している。

日々の作業の中で、表記の統一などについての問題点が多々発生するが、これらは定期的にミーティングを行いながら解決してきた。

今年度、作成している文書は、長いものが多いため、1件あたりのバイト数が大きい傾向にある。そのため、当初の年間の目標は、780件、3.5MBであったが、年度末時点での最終的な実績は、464ファイル、5.46MBとなった。

◆具体的な成果物

作成したデータベースは、すべてデータベース『世界と日本』  
<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~worldjpn/> で、公開される。

## 2. 公開・発信

### (a) ホームページの更新・運営

センターホームページ (<http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/>) の充実をはかり、平成 20 年度の事業報告及び漢籍整理長期研修の講師・課目・日程を追加した。また、研究情報の提供を目的とする「アジア研究情報 Gateway」和文サイトでは、書店ガイドの情報を更に増やし、同英文サイトでは研究エッセイを更新すると共に、研究会情報の更新を行ってきた。

### (b) 研究成果・データベースの公開

漢籍知識庫の構築では、漢籍目録 DB に「四庫全書綜目提要」を付加する入力作業を進め、1000 件のデータを作製した。

中国絵画所在情報データベースおよび東アジア絵画史研究文献目録では、データの修正・補充を行った。

アジア・バロメーターでは、アジア・バロメーター調査のデータを分析したり、分析結果を引用した刊行済みの文献の数は、2009 年 3 月 20 日時点で 203 となっている。また 2006 年度のデータまで、一般の人々が自由に Web 上で閲覧できる環境が整っている

東アジアの共生観醸成に向けた黄砂研究データベースでは、今後のデータベース充実化に向けた基礎調査とサイト構築を目指した。まず、本プロジェクトでは Wiki を採用し、今後継続的に更新できるシステムを導入した。また、既存の黄砂情報を整理するために「研究」「ファンド」「対策」の 3 軸をとってデータ収集を行った。

東京大学東洋文化研究所所蔵インド史跡調査資料デジタルアーカイヴでは、平成 19 年度調査によって獲得されたフランス及びドイツ所蔵のイスラーム・タイルに関する写真資料及び情報を整理した。

データベース「世界と日本」では、首相・外相などの演説、国際会議関連文書、国際条約、その他外交関連文書などのデータなどを作成している。

### (c) アジア・デジタル展示館

本研究所が所蔵する貴重書、写真、考古資料等のデジタル化と公開を継続中である。

### (d) 出版

ニューズレター『明日の東洋学』は第 20～21 号を刊行し、全てのバックナンバーの PDF ファイルをホームページ上で配布している。東洋学研究情報センター叢刊は第 10 輯『Old Maps of Tuva 2』を刊行した。

### (e) 漢籍整理長期研修

平成 20 年度は 6 月 16 日～9 月 5 日に実施し、10 名が受講した（日程及び受講者名簿は 19～20 頁を参照されたい）。6 月 16 日～20 日の 1 週間は人文社会系研究科文化資源学専攻の授業を兼ねており、本学の学生 3 名が受講した。

### 3. 平成 20 年度全国文献・情報センター長会議（第 44 回）

平成 21 年 1 月 30 日（金）に京都大学百周年時計台記念館会議室にて行った。4 センターの現状と問題点及び今後の連携について討議した。今後の連携については、共同研究拠点についての状況報告及び 4 センターの今後のあり方について意見交換を行った。

### 4. 人文社会科学学術情報セミナーの開催

平成 21 年 1 月 31 日（土）に京都大学人文科学研究所附属漢字情報研究センターにて、4 センターの事業報告を行った。

これまでのセンタープロジェクト一覧

	プロジェクト名／担当教員	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	主たる成果
		2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	
1	現代中国書データベース／岡本	一般									国立情報学研究所にデータ提供。情報学研究所の公開開始までは当センターが同データベースを公開（現在は終了）。
2	東文研所蔵タイ語資料データベースの構築／池本					試行					データベースを公開。 <a href="http://ricasdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/thaidb/Thai_Index.html">http://ricasdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/thaidb/Thai_Index.html</a>
3	インドネシアの更紗（バティック）図像データベース作成／関本						一般	一般	一般	一般	
4	『アジア・バロメーター』／猪口、田中			重点	重点	重点	重点	重点	重点	重点	ウェブサイトを開発。 <a href="https://www.asiabarometer.org/ja/index">https://www.asiabarometer.org/ja/index</a> 平成20年度刊行された論文などは <a href="https://www.asiabarometer.org/en/publications/2008">https://www.asiabarometer.org/en/publications/2008</a> にリストアップされている。
5	アジア研究情報ホームページ／丘山、小川				試行	重点	重点	重点			データベースを開発。 <a href="http://asj.ioc.u-tokyo.ac.jp/">http://asj.ioc.u-tokyo.ac.jp/</a> 恒常的な事業として継続
6	戦後日本政治・外交データベース／田中					一般					データベースを開発。 <a href="http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~worldjpn/index.html">http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~worldjpn/index.html</a> ※No.7に発展的に継続。
7	データベース20世紀・21世紀年表／田中						一般	一般	一般		データベースを開発。 <a href="http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~worldjpn/index.html">http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~worldjpn/index.html</a> ※No.8に発展的に継続。
8	データベース「世界と日本」／田中								一般		データベースを開発。 <a href="http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~worldjpn/">http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~worldjpn/</a>
9	東アジア族譜データベース／宮寫	重点	重点								データベースを開発。 <a href="http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~koreandb/zokufuindex.htm">http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~koreandb/zokufuindex.htm</a>
10	在外日本企業作成資料のデータベース化／濱下		試行	重点	試行	試行					
11	仁井田コレクション北京文書の整理／黒田							一般	一般		資料のデジタル撮影完了。
12	江戸・明・古代プロジェクト／平勢		一般	一般	一般	一般	一般				データベースを開発。 <a href="http://kande0.ioc.u-tokyo.ac.jp/topmenu.html">http://kande0.ioc.u-tokyo.ac.jp/topmenu.html</a> /
13	旧東方文化学院所蔵考古資料のデジタル化／平勢					試行	試行	一般	一般		センター叢刊6輯『東京大学東洋文化研究所所蔵古写真資料目録 I』
14	東文研蔵アジア写真資料データベース／平勢						重点	重点	重点	重点	データベースを開発。 <a href="http://kande0.ioc.u-tokyo.ac.jp/ap/takuhon/index.html">http://kande0.ioc.u-tokyo.ac.jp/ap/takuhon/index.html</a> <a href="http://edo.ioc.u-tokyo.ac.jp/edomin/edomin.cgi/kihu/index.html">http://edo.ioc.u-tokyo.ac.jp/edomin/edomin.cgi/kihu/index.html</a>

	プロジェクト名／担当教員	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	主たる成果
		2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	
15	倉石文庫漢籍目録の作成とデータベース化／高見沢、丘山、尾崎	重点	重点	重点							東洋文化研究所漢籍目録データベースに収録して公開。 <a href="http://www3.ioc.u-tokyo.ac.jp/kandb.html">http://www3.ioc.u-tokyo.ac.jp/kandb.html</a>
16	東京大学東洋文化研究所漢籍目録データベース／大木	一般	一般	一般	一般	一般	一般	一般	一般		データベースを公開。 <a href="http://www3.ioc.u-tokyo.ac.jp/kandb.html">http://www3.ioc.u-tokyo.ac.jp/kandb.html</a>
17	東洋文化研究所図書室漢籍検索システムの編成／尾崎				一般	一般					<a href="http://www3.ioc.u-tokyo.ac.jp/kandb.html">http://www3.ioc.u-tokyo.ac.jp/kandb.html</a> に反映。
18	貴重漢籍の補修とデジタル化／丘山				重点	重点	重点				「東洋文化研究所所蔵漢籍善本全文影像資料庫」として公開。 <a href="http://shanben.ioc.u-tokyo.ac.jp/">http://shanben.ioc.u-tokyo.ac.jp/</a> ※No. 19に発展的に継続。
19	貴重漢籍の保存とデジタル化／丘山							重点	重点		データベースを公開。 <a href="http://shanben.ioc.u-tokyo.ac.jp/">http://shanben.ioc.u-tokyo.ac.jp/</a> ※No. 20に発展的に継続。
20	漢籍知識庫の構築／丘山									重点	データベースを公開。 <a href="http://shanben.ioc.u-tokyo.ac.jp/">http://shanben.ioc.u-tokyo.ac.jp/</a>
21	東洋文化研究所所蔵中国雑誌目録の作成とデータベース化／尾崎	試行	試行	試行	試行						データベースを公開。 <a href="http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~ozaki/cnmgz.html">http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~ozaki/cnmgz.html</a> ※ No. 22に発展的に継続。
22	東文研所蔵中国雑誌データベースおよび中国近現代文学関係記事データベースのメンテナンス／尾崎					試行					データベースを公開。 <a href="http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~ozaki/">http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~ozaki/</a>
23	中国絵画デジタルアーカイブプロジェクト／板倉、小川	重点	重点	重点	重点						データベースを試験公開。 <a href="http://cpdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/">http://cpdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/</a> ※No. 24に発展的に継続。
24	中国絵画資料の収集とデジタル化／板倉					重点					続編データをアップし公開。 <a href="http://cpdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/">http://cpdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/</a> ※ No. 25に発展的に継続。
25	中国美術関係資料の収集とデジタル化／板倉						重点	重点	重点		データベースを公開。 <a href="http://cpdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/">http://cpdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/</a> ※No. 26に発展的に継続。
26	中国美術関係資料の収集・整理とデジタル化／板倉									重点	データベースを公開。 <a href="http://cpdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/">http://cpdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/</a>
27	アジア美術画像アーカイブ／小川						重点	重点	重点		※No. 28に発展的に継続。
28	アジア美術画像アーカイブ（第2期）／小川									重点	
29	Tibetan-Sanskrit 構文対照電子辞書構築／鈴木（隆）	一般									Tibetan-Sanskrit構文対照電子辞書を公開（現在は作成者の所属機関＝山口大にサーバを設置）。 <a href="http://suzuki.ypu.jp/edic/">http://suzuki.ypu.jp/edic/</a>
30	南アジアの言語の辞書のデジタル化／永ノ尾					試行					
31	インターネット公開のためのサンスクリット語及び中世ペルシャ語電子辞書作成プロジェクト／永ノ尾					試行	試行	試行	試行	試行	H18年に※No. 29プロジェクトを継承。 <a href="http://suzuki.ypu.jp/edic/">http://suzuki.ypu.jp/edic/</a> <a href="http://texa.human.is.tohoku.ac.jp/ai-ba/demo/eDv/html/">http://texa.human.is.tohoku.ac.jp/ai-ba/demo/eDv/html/</a>

	プロジェクト名／担当教員	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	主たる成果
		2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	
32	東京大学附属図書館所蔵南アジア関係の写本のデジタル化／永ノ尾					試行	試行				サンスクリット語写本データベース http://utlsktms.ioc.u-tokyo.ac.jp 2006年4月より公開。
33	ヒンドゥー儀礼研究のための基礎資料／永ノ尾					一般	一般	一般	一般		
34	英領植民地ビルマにおける土地文書の整理とデータベース化／高橋				試行	試行	試行	試行			データベースを公開。 http://edo.ioc.u-tokyo.ac.jp/edomin/edomin.cgi/hash/index.html
35	内モン古出土学術資料のデータベース化／後藤	重点	重点								データベースを所内限定公開。2003年横浜ユーラシア文化館、2004年古代オリエン特博物館に資料を出陳。
36	インド・イスラム史跡データベース／中里、深見	重点	重点								データベースを公開。 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~islamarc/WebPage1/htm/index.shtml ※No. 37に発展的に継続。
37	イスラーム地域造形資料データベース構築／榎屋			試行	試行	試行					データベースを公開。 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~islamarc/WebPage1/htm/index.shtml ※No. 38に発展的に継続。
38	東京大学インド史跡調査団写真資料のデジタル化およびデータベース構築／榎屋						重点	重点	重点		データベースを公開。 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~islamarc/index.html
39	イスラーム美術作品画像アーカイヴ／榎屋						重点	重点	重点		※No. 40に発展的に継続。
40	イスラーム美術・建築作品の画像・情報アーカイヴ／榎屋									一般	データベースを公開。 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~islamarc/index.html
41	イスラーム地域文献資料データベース構築／長澤			重点	重点						※No. 42に発展的に継続。
42	西アジア近代史文献資料データベース構築／長澤					重点	重点				データベースを公開。 http://ricasdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/ShinPenChiShi_Index.html
43	ダイバーコレクションのデータベース化／鎌田				試行	試行	試行	重点			データベースを公開。 http://ricasdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/daiber/db_index.html
44	アラビア文字圏ポリグロットグロサリー構築プロジェクト／鈴木						試行	試行	試行	試行	
45	アジアのエリートと組織の比較研究の為のデータベース作成に向けての基礎作業／鈴木							一般	一般		

	プロジェクト名／担当教員	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	主たる成果
		2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	
46	東洋文化研究所所蔵「荒木文書」のデジタル情報化／大田			重点	重点	重点					刊行物：東洋学研究情報センター叢刊第4輯『東京大学東洋文化研究所所蔵清朝建築関係史目録』2004年、『東京大学東洋文化研究所所蔵清朝建築図様図録』2005年。
47	中央アジアの伝統的な地域社会組織—マハッラ研究データベース構築／ダダバエフ					試行	一般				『東洋文化研究所紀要』第166冊100-149p. 出版物：『マハッラの実像』
48	東アジアの共生観醸成に向けた黄砂研究データベースの構築									試行	黄砂Wiki 2009年4月から公開（2008年3月から仮公開中） <a href="http://crec.org.cn/kosa/">http://crec.org.cn/kosa/</a> ※黄土高原生態文化回復研究センターのサーバーにて運用中

## 東京大学東洋文化研究所東洋学研究情報センター叢刊既刊一覧

### 東洋学研究情報センター叢刊

- 第1輯 東京大学東洋文化研究所所蔵田中則雄氏旧蔵書目録 2002.
- 第2輯 東京大学東洋文化研究所所蔵夕嵐草堂文庫目録 2003.
- 第3輯 東京大学東洋文化研究所所蔵伊藤義教文庫目録 2004.
- 第4輯 東京大学東洋文化研究所所蔵清朝建築関係史料目録 2004.
- 第5輯 東京大学東洋文化研究所所蔵上村勝彦文庫目録 2005.
- 第6輯 東京大学東洋文化研究所所蔵古写真資料目録 I 2006.
- 第7輯 東京大学東洋文化研究所所蔵荒木茂文庫目録 2007.
- 第8輯 伊藤義教氏転写・翻訳『デーシカルド』第3巻(1) 2007.
- 第9輯 Old maps of Tuva 1 2008.
- 第10輯 Old maps of Tuva 2 2009

### 東洋学文献センター叢刊

- 第1輯 東洋文化研究所東洋学文献センター 新収図書目録(昭和41年度)1968.
- 第2輯 清代地方劇資料集(一)1968.
- 第3輯 清代地方劇資料集(二)1968.
- 第4輯 周揚著訳論文・周揚批判文献目録 1969.
- 第5輯 郁達夫資料 1969.
- 第6輯 東洋文化研究所東洋学文献センター 新収図書目録(昭和42・43年度)1970.
- 第7輯 朝鮮研究文献目録 単行書篇(上)1970.
- 第8輯 朝鮮研究文献目録 単行書篇(中)1970.
- 第9輯 朝鮮研究文献目録 単行書篇(下)1970.
- 第10輯 李大釗文献目録 1970.
- 第11輯 明刊元雜劇西廂記目録 1970.
- 第12輯 朝鮮研究文献目録 単行書篇・編著者名索引 1970.
- 第13輯 魯迅全集注釈索引 1971.
- 第14輯 1930年代中国文芸雑誌(一)1971.
- 第15輯 朝鮮研究文献目録 論文・記事篇(1)1972.
- 第16輯 朝鮮研究文献目録 論文・記事篇(2)1972.
- 第17輯 朝鮮研究文献目録 論文・記事篇(3)1972.
- 第18輯 郁達夫資料補篇(上)1973.
- 第19輯 切韻殘卷諸本補正 1973.
- 第20輯 目録学 1973.
- 第21輯 花間集索引 1974.
- 第22輯 郁達夫資料補篇(下)1974.
- 第23輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集(一)1975.



- 第24輯 江西蘇区文学運動資料集 1976.
- 第25輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集(二) 1976.
- 第26輯 民国以来人名字号別名索引 1977.
- 第27輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事総目(一) 1978.
- 第28輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集(三) 1978.
- 第29輯 中国左翼文芸理論における翻訳・引用文献目録 1978.
- 第30輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集(四) 1979.
- 第31輯 儀礼疏放正(上) 1979.
- 第32輯 儀礼疏放正(下) 1979.
- 第33輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集(五) 1980.
- 第34輯 小説月報(1920-1930) 総目録 1980.
- 第35輯 コミュニテルン定期行物 中国関係論説・記事索引 1981.
- 第36輯 魯迅文言語彙索引 1981.
- 第37輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事総目(二) 1981.
- 第38輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事総目(三) 1982.
- 第39輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集(六) 1983.
- 第40輯 東洋文化研究所所蔵 中国土地文書目録・解説(上) 1983.
- 第41輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事総目(四) 1983.
- 第42輯 校合本 大越史記全書(上) 1984.
- 第43輯 『植民地雜誌』(Koloniaal Tijdschrift) 所収論文目録 1984.
- 第44輯 校合本 大越史記全書(中) 1985.
- 第45輯 江西蘇区紅色戲劇資料集 1985.
- 第46輯 宋之間詩索引 1985.
- 第47輯 校合本 大越史記全書(下) 1986.
- 第48輯 東洋文化研究所所蔵 中国土地文書目録・解説(下) 1986.
- 第49輯 許舒博士所輯 広東宗族契拋彙録(上) 1987.
- 第50輯 沈佺期詩索引 1987.
- 第51輯 中華人民共和国・朝鮮民主主義人民共和国 職官歴任表 1987.
- 第52輯 韓国政治エリート研究資料 -職位と略歴- 1987.
- 第53輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事総目(五) 1988.
- 第54輯 許舒博士所輯 広東宗族契拋彙録(下) 1988.
- 第55輯 南嶽思大禪師立誓願文索引 -六朝隋唐宗教・思想資料- 1988.
- 第56輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事総目(六) 1988.
- 第57輯 郁達夫資料総目録附年譜(上) 1989.
- 第58輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事総目(七) 1989.
- 第59輯 郁達夫資料総目録附年譜(下) 1990.
- 第60輯 山西票号資料 書簡篇(一) 1990.
- 第61輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事総目(八) 1990.

- 第62輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雑誌記事総目(九) 1991.
- 第63輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雑誌記事総目収載雑誌名索引  
1992.
- 第64輯 許壽裳日記(自1940年8月1日至1948年2月18日) 1993.
- 第65輯 許舒博士所蔵商業及土地契約文書 乾泰隆文書(1) 1995.
- 別輯1 東京大学東洋文化研究所漢籍分類目録(書名・人名索引)  
京都大学人文科学研究所漢籍分類目録(書名・人名通檢)
- 別輯2 海外所在中国絵画目録(アメリカ・カナダ編) 1977.
- 別輯3 海外所在中国絵画目録(東南アジア・ヨーロッパ編) 1981.
- 別輯4 日本所在中国絵画目録(寺院編) 1982.
- 別輯5 LABRANG 李安宅の調査報告 1982.
- 別輯6 日本所在中国絵画目録(博物館編) 1982.
- 別輯7 日本所在中国絵画目録(個人蒐集編) 1983.
- 別輯8 中国經濟關係雑誌記事総目録(一) - 『中外經濟周刊』『經濟半月刊』『工商半月刊』 - 1983.
- 別輯9 孟郊詩索引(上) 1984.
- 別輯10 孟郊詩索引(下) 1984.
- 別輯11 中国經濟關係雑誌記事総目録(二) - 『國際貿易導報』 - 1985.
- 別輯12 中国經濟關係雑誌記事総目録(三) - 『中行月刊』 - 1985.
- 別輯13 『内務行政雑誌』所収論文・記事目録(A Catalogue of the Articles in Tijdschrift voor het Binnenlandsch Bestuur) 1985.
- 別輯14 中国經濟關係雑誌記事総目録(四) - 『銀行週報』(上) - 1987.
- 別輯15 春秋晋国『侯馬盟書』字体通覧 - 山西省出土文字資料 - 1988.
- 別輯16 中国經濟關係雑誌記事総目録(五) - 『銀行週報』(下) - 1989.
- 別輯17 海外所在中国絵画目録 改訂増補版(ヨーロッパ編) 1992.
- 別輯18 海外所在中国絵画目録 改訂増補版(アメリカ・カナダ編 上 本文編) 1994.
- 別輯19 海外所在中国絵画目録 改訂増補版(アメリカ・カナダ編 下 索引編) 1994.
- 別輯20 『販書偶記』正統編合併刊行目録 1995.
- 別輯21 海外所在中国絵画目録 改訂増補版(東アジア編) 1997.
- 別輯22 日本所在中国絵画目録 続編 1998.
- 別輯23 天津史文献目録 1998.
- 別輯24 東京大学東洋文化研究所仁井田文庫漢籍目録 1999.

## 大型コレクション目録

Catalogue of the Arabic Manuscripts in the Daiber Collection, 1988.

Catalogue of the Arabic Manuscripts in the Daiber Collection II, 1996.

平成20年度漢籍整理長期研修 日程・課目・講師

日 程	時 間	課 目		講 師	備 考
6月16日(月)	9:30～ 17:00	開講式(9:30～10:00) オリエンテーション  漢籍版本目録概説 (10:00～17:00)	講義	小川 裕 充 (東洋学研究情報センター長)  大木 康 (東洋文化研究所教授)	
6月17日(火)	9:00～ 17:00	四部分類について	講義	井波 陵 一 (京都大学教授)	
6月18日(水)	9:00～ 17:00	漢籍整理実習 (1)	実習	陳 捷 (国文学研究資料館准教授)	
6月19日(木)	9:00～ 17:00	漢籍整理実習 (2)	実習	陳 捷 (国文学研究資料館准教授)	
6月20日(金)	9:00～ 17:00	朝鮮本について	講義	藤本 幸夫 (麗澤大学教授)	
6月23日 ～ 8月29日		所属図書館所蔵漢籍整理及 び研究	自習		
9月1日(月)	9:00～ 17:00	東洋文庫について (見学を含む)	講義	中善寺 慎 (東洋文庫司書)	東洋文庫見 学を含む
9月2日(火)	9:00～ 17:00	和刻本について	講義	長澤 孝三 (元国立公文書館内閣文庫長)	
9月3日(水)	9:00～ 17:00	漢籍データベースの利用と 構築	講義	安岡 孝一 (京都大学准教授)	
9月4日(木)	9:00～ 17:00	漢籍補修法	講義	長谷川 修、篠原 宏 (宮内庁書陵部)	
9月5日(金)	9:00～ 16:30	漢籍整理実習 (3)	実習	大木 康 (東洋文化研究所教授)	
	16:30～ 17:00	修了式		小川 裕 充 (東洋学研究情報センター長)	

## 平成20年度東洋学研究情報センター 決算報告

予算及び決算

(単位：千円)

予算費目	予算額	決算額	備 考
研修事業	641	603	
4センター事業	340	172	
出版事業	2,040	1,385	
センター事務室の維持管理	1,439	716	
アジア研究情報Gateway	1,850	1,037	
センタープロジェクト費	8,000	8,860	
予備費	200	1,737	
計	14,510	14,510	

決算額内訳

(単位：千円)

予算費目	内 訳	決算額	備 考
研修事業	漢籍講師旅費	134	
	漢籍講師謝金	441	
	研修教材費等	28	
4センター事業	センター長会議旅費	130	
	センターセミナー旅費	42	
出版事業	ニューズレター原稿謝金・出版費	466	
	センター叢刊出版費	597	
	通信費・封筒印刷費	322	
センター事務室の維持管理	複写費	80	
	消耗品費	107	
	デジタル化推進経費	21	
	通信費	35	
	賃金	473	
アジア研究情報Gateway	賃金	908	
	原稿謝金	38	
	英文翻訳費	91	
センタープロジェクト費	センタープロジェクト費	8,860	内訳は次ページ参照
予備費	NEAS報告書印刷	131	
	研究所予算に組入れ	1,606	
計		14,510	

平成20年度センター運営費プロジェクト 決算

(単位:千円)

No	プロジェクト名称	担当教員	予算額	決算額
1	漢籍知識庫の構築	丘山	1,750	2,137
2	アジア美術画像アーカイブ(第2期)	小川	2,290	2,426
3	中国美術関係資料の収集・整理とデジタル化	板倉	820	799
4	東文研蔵アジア写真資料データベース	平勢	670	600
5	アジア・バロメーター	田中	700	700
6	インターネット公開のための電子辞書作成プロジェクト	永ノ尾	370	507
7	アラビア文字圏ポリグロットグロサリー構築プロジェクト	鈴木	730	871
8	東アジアの共生観醸成に向けた黄砂研究データベースの構築	安富	670	820
計			8,000	8,860

※他の予算費目から流用 860千円